

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会】

### 1. 対象 4年生

子供は、「水はどこから」「ごみのしよりと利用」の単元で、教科書やインターネットを使い浄水場やゴミ処理場の働きについて調べ学習を行った。子供は学習の計画に基づいて調べる資料や学習の形態(個別、ペア、グループなど)を選択した。調べた内容については「水はどこから」ではノートに、「ごみのしよりと利用」では情報共有アプリにまとめていった。パソコンでのまとめには苦労する様子も見られたが、友達と協力しながらまとめることができるようになってきた。本単元は自然災害に対する諸活動として、「家庭」「学校」「国・県・町」「地域」の取り組みがそれぞれ関わっているため、情報共有アプリに意見を書き出しながら整理し、まとめていく。

子供が静岡県の過去の災害ではどのような取り組みをし、協力体制を整えてきたのかを考える中で、時間の経過という視点から、発災前の備えや発災後の対応などを調べられるようにする。また、自助、共助、公助に関して関係機関の人々がどのように関わっているのかを考える場を設定する。このような社会科の見方・考え方を働かせながら、調べたことを関連付けながらまとめる力を養いたい。

### 2. 単元名「自然災害からくらしを守る」(全9時間)

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

<b>知識及び技能</b>	静岡県内の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることが理解できる。 静岡県の地理的環境と特色、自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえ理解し、必要な情報をまとめる技能を身に付けることができる。
<b>思考力, 判断力, 表現力等</b>	地域や国・県の取り組みや相互の関連、諸活動の意味や目的を考え、発災時に想定される社会的課題を把握し、その解決に向けた関わり方を選択・判断し、考えたことや選択判断したことを表現することができる。
<b>学びに向かう力, 人間性等</b>	社会的事象について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活へ生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情や地域社会の一員としての自覚をもとうとしている。

### 4. 本時の目標

それぞれが調べたことを基に、情報共有アプリに「家庭」「学校」「町・県・国」「地域の人々」が地震に対して行っている取り組みをまとめる活動を通して、関係諸機関が協力・連携しながら災害に対する対処・備えを行っていることがわかる。

### 5. 授業展開【本時・単元】

#### 解決したい課題や問い

地震からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。

考えるための材料			
<b>家庭(自助)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用持ち出し袋の準備</li> <li>・家具の固定</li> <li>・エレベーターの地震対策</li> <li>・避難場所の確認</li> <li>・避難訓練への参加</li> <li>・テーブル下への避難</li> <li>・災害用伝言ダイヤル</li> <li>・避難場所へ避難</li> <li>・落ち着いた行動</li> <li>・SNSで情報収集</li> </ul>	<b>学校(共助)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施</li> <li>・起震車体験</li> <li>・本棚の固定</li> <li>・防災倉庫の備蓄</li> <li>・運動場への避難</li> <li>・救助・支援の要請</li> <li>・校舎や体育館を避難所にする</li> <li>・食料・水の分配</li> </ul>	<b>町・県・国(公助)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の防潮堤、避難ビルの建設</li> <li>・防災計画</li> <li>・避難行動計画</li> <li>・大規模訓練</li> <li>・ハザードマップの作成</li> <li>・国への災害派遣要請</li> <li>・被災者への支援</li> <li>・救助・救援</li> <li>・被害状況の発信</li> </ul>	<b>地域の人々(共助)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織</li> <li>・消防団</li> <li>・訓練</li> <li>・点検</li> <li>・救助・支援の要請</li> <li>・救助活動</li> <li>・消火活動</li> <li>・避難誘導</li> <li>・情報収集</li> <li>・炊き出し</li> </ul>

**対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)**

→学校でも町や県でも地域でも、防災訓練を行うのはどうしてだろう。

→同じようなことをしたり、協力し合ったりしているのはどうしてだろう。

※各機関に共通する取り組みや、関連性がある取り組みを見付け、その理由を考える

- ・ハザードマップは町が作るけど、地域の声が生かされているよ。
- ・地震が起きたらSNSで情報を集めるけど、町のアカウントで情報が発信されていたよ。
- ・学校は地震が起きたら避難所になるよ。
- ・避難訓練を学校も地域も県も行っているね。
- ・町が出した情報をSNSで見つけるよ。
- ・ハザードマップは町の人と地域の人が協力して作っているね。
- ・学校は避難所になるけど、避難所の運営は町の人が行うんだね。
- ・学校でも家でも留め具をしているよ。
- ・救助の場面では自衛隊だけでなく自主防災組織も活躍するよ。

**学習の成果(予想される生徒のあらわれ)**

○関係諸機関(「家庭」「学校」「町・県・国」「地域の人々」)が協力して、地震に対する取り組みを行っていることが分かる。

○自助、共助、公助のどれか1つでも欠けてしまうと、地震の被害が大きくなってしまふことが分かる。

- ・地震から暮らしを守るために、様々な立場の人たちが協力し合って備えをしている。
- ・地震から暮らしを守るために、家庭や学校、町、地域が協力して対策をしている。